



## 市制施行50周年を祝して

根室市長 長谷川 俊 輔

昭和三十二年八月一日、根室町と和田村の合併により、全国五百一番目、北海道二十三番目の市として根室市が誕生して以来、輝かしい節目の五十年を市民皆様とともにお祝いできますことは、この上ない喜びであります。

ここに、私たちの先人が幾多の試練に遭

遇しながらも、たゆまぬ開拓の精神と郷土愛のもとにさまざまな困難を乗り越え、さらに数々の偉業を残された「郷土根室の歴史」に改めて思いをはせ、永年の市政発展にご尽力を賜りました各界各層の皆様に対しまして、心より感謝を申し上げます。

当市は、市制施行後の昭和三十四年四月に歯舞村を編入し、人口三万八千五百十一人の「新生ねむろ」として、今日のまちの姿が築かれましたが、顧みますと先の大戦で街の八割が焦土と化し、さらに一体の生活経済圏であった北方領土の喪失という大変な困難に遭いながらも、不屈の精神と潜在力を結集し、一丸となって郷土ねむろの復興に邁進してきた歴史が刻まれております。

これまでの半世紀、私たちを取り巻く社会経済情勢は、目まぐるしく変化してきました。高度経済の成長期は成熟期へと変化し、少子高齢化やグローバル化、高度情報化、地方分権化などさまざまな分野において変革の時代を迎えております。

また、市中経済の根幹をなす基幹産業の水産業は、漁業専管水域二百海里の設定をはじめ国際漁業規制による度重なる減船に遭いながらも、水産都市の名声を全国に発信して参りました。さらに農業は、乳価の引き下げや輸入農産物の自由化問題など、厳しい環境に直面している中で、経営合理

化を柱に大規模農業への転換等への取り組みが進められております。

一方、北方領土問題は、返還運動原点の地として全国の先頭にたつて返還運動の啓発と世論の喚起に取り組んできました。しかし、未だ具体的進展がなく今日に至っておりますが、未来に希望の持てる取り組みをまとめた「再構築提言書」の具現化を目指し、ゆるぎない返還運動の推進に、さらなる気概と決意をもって取り組んで参ります。

新しい時代には、ふさわしい地域を創造するとともに、個性豊かで独自性に満ちた魅力あるまちづくりが求められております。現在、第八期根室市総合計画を推進中ではありますが、将来の都市像を「協働を合言葉に市民とともに創る活気あふれる住みよいまち根室」として、この市制施行五十周年を次代への新たな出発点として歴史を振り返り、現在、そして未来を見つめ、市民、産業・経済界、行政が一体となって、郷土ねむろのさらなる飛躍に全力を尽して参りますことをお誓い申し上げます。

今日まで根室市建設のため熱意をもって取り組まれ、またご懇切なご支援・ご尽力を賜りました先輩各位、並びに市民の皆様へ深く敬意と感謝の意を表し、市民皆様のご健勝とご繁栄を心からお祈り申し上げます。